

医療従事者応援プロジェクト 只今進行中Ⅱ (中学生・特別支援学校の部) ～ハガキで感謝の気持ちを届けよう～



一般社団法人生産技術振興協会 執行理事 兼 事務局長
公益社団法人日本WHO協会 執行理事 一級建築士/工学博士

巽 昭夫

昭和27年3月生まれ、大阪大学工学部建築学科卒業。
一級建築士の立場から、換気の重要性や間仕切りによる
自宅隔離の在り方について関心を高めている。

はじめに

執筆時点で、日本はコロナの第3波襲来中であり、1月7日には2回目の緊急事態宣言が発令されました。ウイルスに変異株が発生し、感染力が強化されていると報道もあり、欧州を中心に物流に混乱をきたしています。英国のEU離脱に関し、難航していたEUとの自由貿易協定（FTA）がぎりぎりになって妥結したのも、この変異株のウイルス流行で英国内の国内事情がひっ迫したことが後押ししたのは皮肉なことです。一方で、ワクチンの接種も始まり明るい材料もあります。わが国では2月から接種が始まるようですが、接種を希望しない方や、かなり急な開発で副反応などの治験の検証が不十分と思っている方々もおられるようです。社会にとって試練の時と言えるのではないのでしょうか。

さて、医療従事者応援プロジェクト～ハガキで感謝の気持ちを届けよう～も小学生の部から中学生の部を終了し、今回は812通の作品の応募がありました。また、2021年に入り、新たに高校生の部の募集を開始いたしました。

After コロナ時代を論ずる前に、いったん立ち止まり、自分の目の前に起こっていることをよく観察し、感動し、失望することを体験し、人生のライフスパンの中で今回のパンデミックを自分の人生にどのように位置づけるかを静かに考える機会にしたいものです。今回は、昨年完了した、感受性豊かな中学生の部の総評と主な作品を紹介させていただきます。

総評

全ての部を通して、どの作品にも、「皆で、コロナに負けず健康を守ってゆこう。」「医療従事者に対する差別をなくそう」という思いが込められており、生徒の皆さんが表現する中で、医療従事者に対する思いやりと、自分たちでできることを自分たちでやろうという意気込みを感じ、若い世代が今回のコロナ禍を自分の問題として深く考えることができたことに大きな意義を感じました。

中学校1年の部の作品

中学校1年の部の作品では、描く視点を変えたり、図案化したり、背景を工夫したりして、アイデアあふれる画面構

成で表現されていました。併せて、世界へと広がる意識の中、一人一人の行動変容の大切さや、友達同士で支えあうことの大切さなどを主題として、どのように表現するかをよく考えて表現された作品が多く見られました。

中学校2年生の部の作品

中学校2年の部では、表現技法では、表現したい主題を効果的に伝えるために、アイデアを練り、独自のイメージを広げ、画面構成を工夫した作品が数多く見られました。新型コロナウイルスの感染による差別が生まれないことを願った作品など、中学生の意識の高さや発想の豊かさを感じました。



佳作 特別支援学校の部



佳作 特別支援学校の部

中学校3年生の部の作品

中学校3年の部では、助け合うことや考えることの大切さなどを主題とした作品や、医療従事者に対する差別のない明るい社会の実現を描く作品が多く見られました。ICTを用いた効果的な表現や、アニメ風の表現など様々な表現技法、発想が見られ、豊かな感性と技術の高さを感じました。「休息をとってください!」

といった、医療従事者の過労に対し思いやりあふれるメッセージが盛り込まれた作品もありました。

特別支援学校の部

特別支援学校の部では、奇抜な色遣いなど個性あふれる作品が多く応募されました。ご指導くださっている先生方の丁寧な指導や応援を感じました。生徒たちは自分の思いや願いを生き生きと表した

線描が多く見られました。笑顔で表現された家族、友達、かわいい動物などの素直な表現により、見る側を優しい気持ちにさせてくれる作品ばかりでした。

中学生の次はいよいよ高校生の中に入りました。美術部の生徒さんや、CG（コンピュータグラフィック）を駆使した作品などが登場することが予想されます。7名の選考委員一同、高校生の中に入りました。美術部の生徒さんの応募を楽しみにしています。



優秀賞 中学1年生の部



優秀賞 中学2年生の部



優秀賞 中学3年生の部



優秀賞 中学3年生の部